連載コラム：アメリカ海軍の作戦
第３回：「戦いのレベル」と「作戦」

はじめに

「経営戦略を建てる」、「積極的な作戦は成功（失敗）した」、「いい（悪い）守備戦術」…など、「戦略」、「作戦」及び「戦術」といった用語は純軍事的な戦いの世界のみならず、ビジネスやスポーツなどの分野でも広く一般に用いられている。これらの用語は何が違い、どのような関係にあるのだろうか？その中で「作戦」とはどのように位置づけられているであろうか？

第１回（アメリカ海軍の作戦計画作成手順）の中で、本手順が「作戦レベルの戦い（Operational Level of War）」に主眼を置いていることを簡単に述べた。今回はもう少し掘り下げて、「戦いのレベル」と「作戦」の概要について、アメリカ海軍ドクトリンの記述等に基づき紹介する。

１　「作戦」とは？

（１）「作戦」の概念誕生の経緯

「作戦（Operation）」という概念は、１７世紀後半にヨーロッパにおいて「各種の軍事的活動」の意で使用され始めたとされている。[i]以後、１９世紀後半にプロシアがナポレオン率いるフランスとの戦争に際して導入した参謀制度において、用語として「作戦」を多用したが、「作戦」の概念が急速に普及したのは 1991 年の湾岸戦争以降である。

ちなみに、帝国海軍において「作戦」の概念が萌芽したのは明治期後半[ii]であり、「Operation」を「作戦」と訳し帝国海軍内に普及させたのは秋山真之であるといわれている。

（２）アメリカ海軍における「作戦」の意味

アメリカ海軍では、統合軍ドクトリンの一つである「統合作戦（JP3-0（Joint Operations））」の定義から引用し、「アメリカ海軍作戦計画作成手順（NWP5-01（Navy Planning））」にて以下の通り「作戦」を定義している。

1 共通の目標達成又は主眼とするものに(努力を)統一させる一連の戦術行動 （A sequence of tactical actions with a common purpose or unifying theme.）

これは、「目標達成に向けて、個々の戦術行動を１つに束ね合わせた活動」と解することができ、戦術行動の成果が作戦目標達成に寄与できる関係を内在的に意味していると解することができる。

（３）我が国における「作戦」の意味

我が国の一般辞書[iii]では、「作戦」を概ね「戦いにおける各種軍事行動」と定義しているが、その位置づけについては、「戦略」又は「戦術」の一部分、大部隊運用と同義などといった多様な解釈をしている。更に兵力規模及びその活動範囲に言及していないこと及び戦略・作戦・戦術の相互関係が不明瞭かつ解釈が異なっていることとも相まって「作戦」の理解が困難となっている。

２　「戦いのレベル」と「作戦」

（１）全　般

アメリカ軍では、軍事活動を三層から構成される「戦いのレベル（The Level of War）」すなわち、「戦略（Strategic）」、「作戦（Operational）」及び「戦術（Tactical）」の各レベルに区分し、上-中-下層間の軍事活動を関連付けている。[iv]つまり、最下位（現場）レベルの一連の「戦術行動（Tactical Action）」を一体化させたものが「作戦」であり、異なる地域でほぼ同時かつ独立して実施する複数の「作戦」が「戦略」となる。これにより、「最下位の戦術行動の成果が最上位の「国家目標（National Objectives）」達成に寄与できる構造を成している。

三層の「戦いのレベル」を定め、その中で「作戦」の位置付けを明確にすることで、「作戦」遂行に必要な「戦術レベル」の兵力資源の確保、配分及び任務の指定が容易となる。

「戦いのレベル」のそれぞれ概要は、以下の通りである。

（２）戦略レベル（the Strategic Level of WAR）

合衆国大統領（President of the United of States（POTUS））若しくは国家安全保障局（National Security Council（NSC））主導のもと、政治、経済、外交、軍事、情報等の各種「国家権力(National Instruments of Power)」を駆使して、米国の「国家目標（National Objective）」の達成を追及する最上位のレベルをいう。国家戦略に基づき、米国国防長官（Security of Defense（SECDEF））は、軍事的視点から「責任区域（Area of Responsibility）」において「戦域目標（Theater Objective）」達成のため、「戦域戦略計画（Theater Strategic Plan）」を策定し、直下レベルの「作戦」の大枠を決定する。

「戦域軍指揮官（Geographic Combatant Commander（GCC））」は、この大枠に基づき「戦域（Theater of Operation（TO））」において、任務を遂行する。

（３）作戦レベル（The Operational Level of War）

「戦略レベル（Strategic Level）」と「戦術レベル（Tactical Level）」の中間に位置し、戦略目標から導出した作戦目標達成のため、統合任務部隊指揮

官（Commander, Joint Task Force（CJTF））及び海上構成部隊指揮官（Joint Force Maritime Component Commander（JFMCC））等が、「統合作戦区域（Joint Operational Area）」及び「作戦区域（Area of Operation（AO））」において、「作戦目標（Operational Objective）」達成のため、利用可能な戦力資源を活用して「戦役（Campaign）」及び「主要作戦（Major Operation）」を計画し遂行する戦いのレベルをいう。

なお、「戦役（Campaign）」とは、戦略/作戦目標達成のための、一連の関連した主要作戦（a series of related major operations）をいい、「主要作戦（major operations）」とは、作戦目標達成のための一連の戦術行動（戦闘、交戦、打撃）（A Series of Tactical Actions(Battle, Engagements, Strikes)をいう。

「作戦レベル」での戦いでは、現場部隊の戦術行動がもたらした結果の相乗効果・累積効果によって作戦目的が達成できる。故に、「作戦レベル」での戦いの成功の鍵は、「行動の統一（Unified Action）」にあり、戦術レベルの各部隊等の行動を整合（Synchronize）、調整（Coordinate）及び統合（Integrate）することによって「努力の統一（Unity of Effort）」及び「指揮の統一（Unity of Command）」を図ることが肝要である。

（４）戦術レベル（The Tactical Level of War）

「戦術レベル」の目標達成のため、任務部隊/群/隊指揮官（Commander, Task Force/Group/Unit（CTF/CTG/CTU））が、例えば「水陸両用作戦区域（Amphibious Objective Area（AOA）」及び「空母作戦区域（Carrier Operating Area（CVOA））」等において、「戦闘（Battle）」、「交戦（Engagement）」、「打撃（Strike）」及びその他の活動（Activity）を計画し遂行する戦いのレベルをいう。

「交戦」は、敵に対し有効に効果を発揮する広範かつ多様な活動であり、比較的短時間に推移する。「戦闘」は、一連の相互に関係する複数の交戦をもって構成される。

一般的に戦術レベルの戦いでは、「攻撃目標（target）」、「重心（Center of Gravity（COG）」を構成する「緊要な脆弱部分（Critical Vulnerability（CV））」及び「勝敗を決する決定的な要衝（Decisive Point（DP））」等を具体的な物的目標に指定する。換言すれば戦略レベルから作戦レベルを経て戦術レベルに至る過程において、それぞれの努力目標は包括的な概念からより具体的な物的目標に変換されていく。

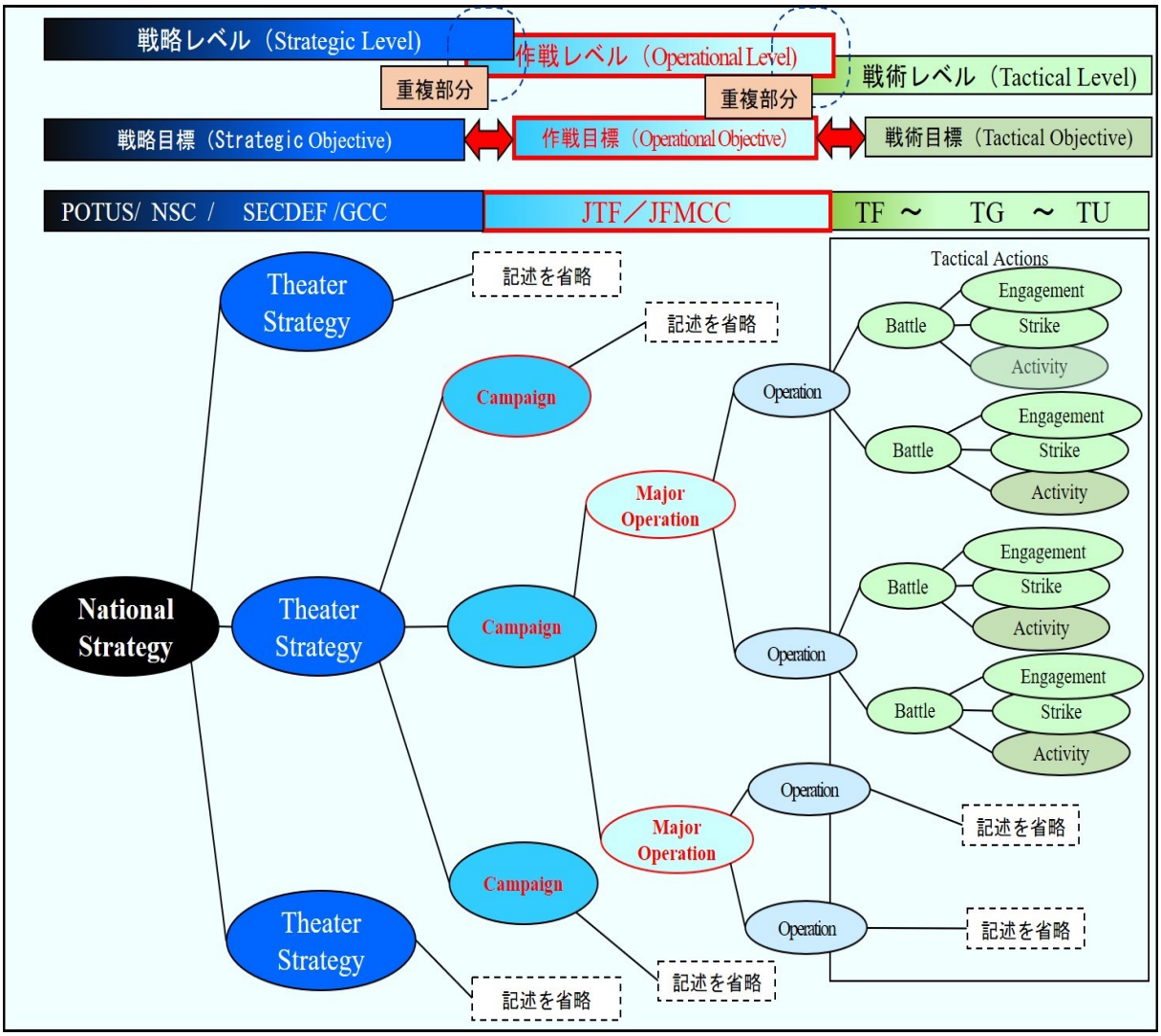
（５）「戦いのレベル」の相互関係

それぞれの「戦いのレベル」において、達成すべき目標が定められ、それらが最上位（包括的目標）から最下位（具体的目標）に至るまで「目標の連鎖関係

（Chain of Objective/Objective Linkage）」をもって繋がっている。これは、軍事作戦を遂行するに当たり、極めて重要な概念である。「作戦レベル」は、それぞれの目標を介して「戦略レベル」と「戦術レベル」の「橋渡し」の役割を担っている。この考え方に基づき、軍事行動（Military Action）をはじめとするあらゆる国家の活動、すなわち、政治、外交、経済、情報等の諸活動は、その国家戦略目的（National Strategic Objective）達成のため、下位レベルから上位レベルに指向努力され、その結果として国家としての所望成果（National Desired End State）（＝望ましい将来の状態）が実現される。

なお、各レベル間には明確な境界は存在せず、重複部分（活動の共有部分）が存在している。

図-１及び表-１に「戦いのレベル」の相互関係を示す。



【図-1 「戦いのレベル」の相互関係】

（JP3-0 等を参考に筆者が作成）

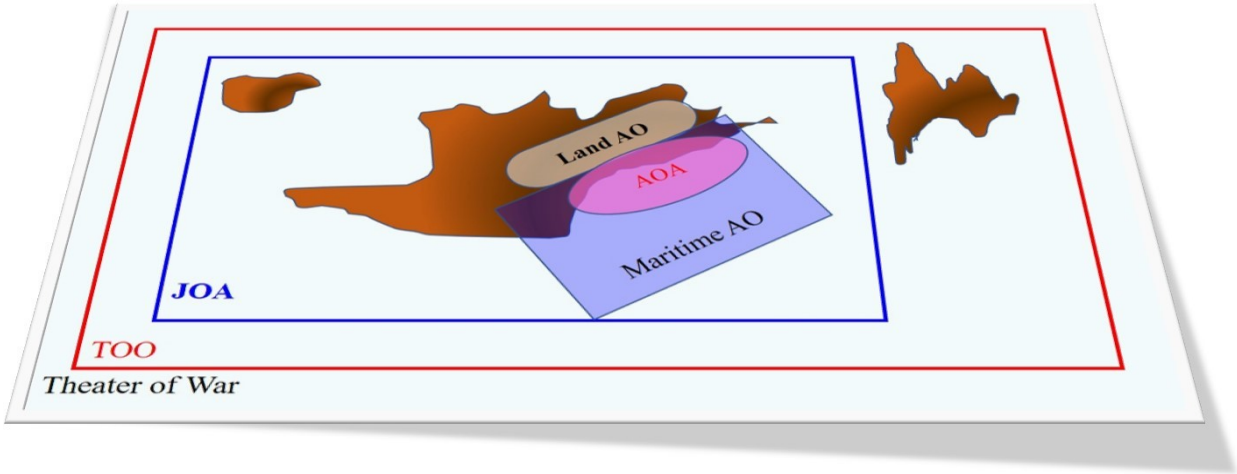
戦いのレベル (Level of War)	戦略レベル（Strategic）			作戦レベル (Operational)		戦術レベル (Tactical)	
	国家戦略レベル	戦域戦略レベル					
目　標 (Objective)	国家目標等 (National Obj)	戦域目標 (Theater Obj)		作戦目標 (Operational Obj)		戦術目標 (Tactical Obj)	
責任権者 (Authority)	POTUS NSC	SECDEF	GCC	CJTF	JFMCC	CTF	CTG CTU
戦いの名称	War	Campaign / Major Operations				Battle	Engage--ment
担当区域	Theater of War	AOR	TO	JOA	AO	AOA	CVOA Sector

【表１　戦いのレベルの相互関係】

（アメリカ海軍大学教育資料等を参考に筆者が独自に作成）

３　任務遂行上の責任管理（Control Measure）

指揮官の責任権限の及ぶ範囲は上級指揮官により地理的に明確に区分され、現場部隊の展開/機動（Movement/Maneuver）及び火力支援（Fire Support）等の視点からの相互干渉を防止（De-Conflict）している。この概念を「（任務遂行上の）責任管理（Control Measure）」[v]又は「区域管理（Span of Control）」という。戦術レベルでの「水/空域管理（Water/Air Space Management）」も「Control Measure」の一つである。「任務遂行上の責任管理」のイメージを図-２に示す。

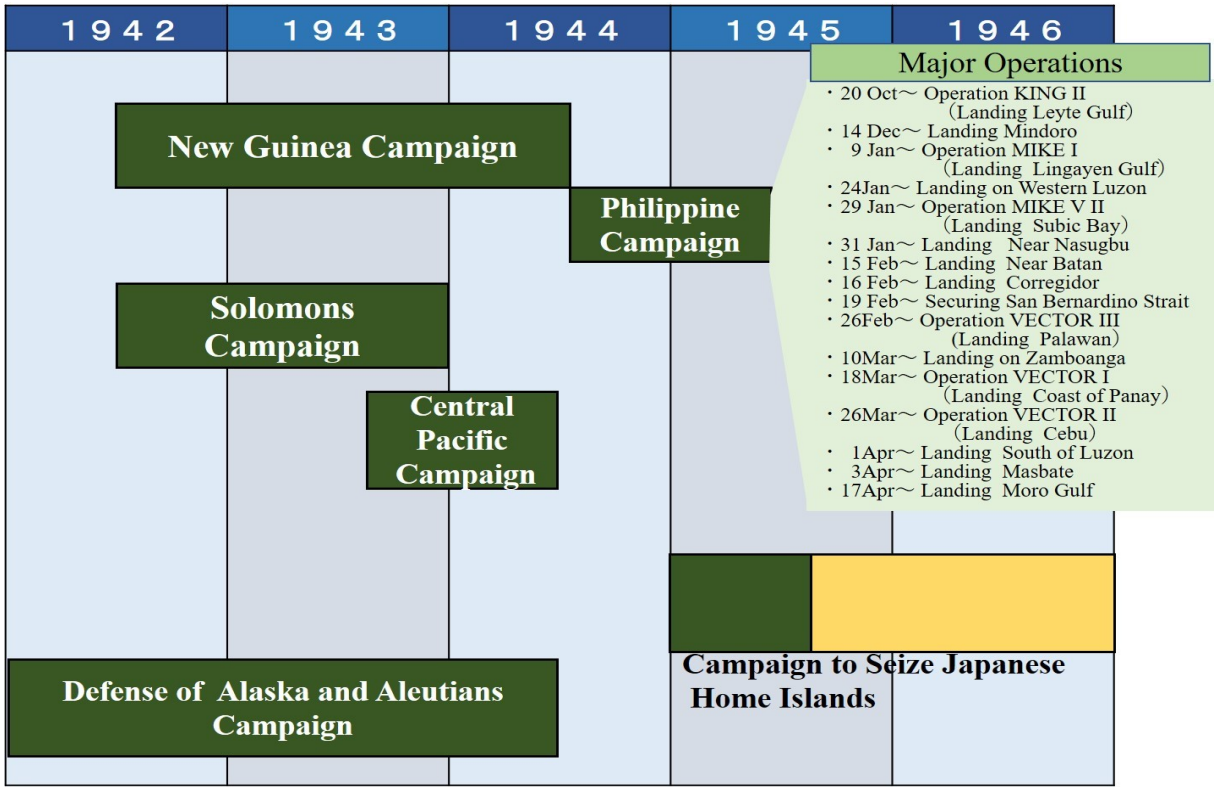


【図-２　「任務遂行上の責任管理」の例】

（JP3-0 等を参考に筆者が独時に作成）

４　「作戦」の実例

第２次世界大戦時のアメリカ軍は、太平洋戦域（The Pacific Theater）において、６個の連合軍海上戦役（Allied Maritime Campaign）を実施し、特にフィリピン戦役（The Philippine Campaign）はレイテ湾上陸作戦をはじめとする 16 個の主要作戦を計画した。これらが同時に又は順次実施されたことにより、同戦役の目的達成に寄与した。それらの概要を図-３に示す。



【図-３　太平洋戦域におけるアメリカ軍の戦役と主要作戦】

（（アメリカ海軍大学教育資料等を参考に筆者が独自に作成）

おわりに

かつての帝国海軍は、対米戦に際し日本海海戦の再現を過度に期待し、来攻するアメリカ太平洋艦隊を我が国近海にて迎え撃つ「漸減邀撃作戦」の実現に向けて海軍力を整備し教育訓練に励んできたが、所謂「艦隊決戦」と称される戦艦を中心とした大規模水上打撃戦は再現せず、落日の憂き目を見たことは周知のとおりである。

これは、情勢が激変しても現実に見合った新たな作戦を組み立てる発想が極めて希薄であり、「戦術レベル」の戦いに過度に依存し過ぎたこともその要因であると考えられる。

確かに戦術で部分的に勝利を得たが、戦略目標達成には貢献できなかったのである。「作戦レベル」での戦い方をしっかり保持していれば、あれほどに大敗を期し、

多くの犠牲を払った挙句に無条件降伏するといった結末は回避できたのではないだろうか？

海上自衛隊は創設以来、我が国沿岸及び周辺海域における対潜戦及び対機雷戦をはじめとする戦術技量・各種戦能力といった「戦術レベル」の戦いに主眼を置き、海上防衛力の整備・維持・向上に鋭意努力してきた。一方、冷戦終結後は、複雑かつ混とんとした現代の海上作戦を行う環境下において、多様化しかつ突発的な出現が予期される脅威に対し迅速かつ適切な対応が求められ、併せてインド・アジア太平洋地域といった広大な作戦海域における国際貢献を含む平素から有事に至る海上防衛力の活用が期待されている。

ところが、我々は帝国海軍と同様に旧態依然とした「戦術」重視の姿勢を堅持し、今まで述べてきた「作戦」の概念が適切に理解されているとは言い難い。昨今の情勢に鑑みれば、もはや「戦術レベル」の戦いの能力だけでは不十分であり、今後はあらゆる情勢に対応するため、「戦術レベル」の能力を基礎としつつ、「作戦レベル」の能力向上、すなわち限られた保有資源を効果的かつ有機的に活用しこれを目的に適切に指向して、その相乗効果・累積効果を企図した「作戦」を組み立てることのできる作戦計画能力とそれを適切に実施できる作戦遂行能力の向上が今後の我々に求められるのではないだろうか？

これこそが真に戦える精強な組織の実現の方策であり、戦いに勝ち残るための要訣となろう。今後はこのような視点を踏まえた上で、「作戦レベル」の計画作成及び任務遂行能力の向上を推進していかなければない。先の大戦の悲劇を二度と繰り返さないためにも、「作戦レベル」の戦いのマインドの醸成は我々の急務である。

海上自衛隊幹部学校運用教育研究部
1等海佐　浅 野　潔

（本コラムの記述内容（和訳語を含む。）は、あくまでも執筆者個人の独自見解であり、防衛省または海上自衛隊の見解を表すものではありません。）

[i] 「作戦」の概念誕生と発展の経緯等については、中村好寿 『作戦とはなにか-戦略・戦術を活かす技術』中央公論社に詳しい。

[ii] 海軍大学校が用語の定義として発刊した「兵術界説」(明治四十年三月改版 第四版)では、「作戦」を以下の通り定義している。

「兵術ヲ實施スル動作ヲ作戦 (Operation) ト謂ヒ兵術ヲ實施スル画策ヲ作戦計画 (Plan of operation) ト謂フ、又戦術ヲ實施スル画策ヲ特ニ戦策ト称シ、戦術ヲ實施スル制規ノ方法ヲ戦法ト称ス」

[iii] 例えば以下のように定義している。

「戦略または戦術を実施すること」(ブリタニカ国際大百科事典)
「軍隊が与えられた任務を遂行するために行う対敵行動の総称で (中略) 戦略･戦術を具体化したもの」(株式会社平凡社世界大百科事典 第２版
「作戦遂行のための方策が戦略、戦術である。一般に戦略は作戦を対象とし、戦術は戦闘を対象とする。戦略、戦術が現実に適用、具体化されたものが作戦、戦闘なのである。(小学館　日本大百科全書(ニッポニカ))

「国防用語辞典(1980 年 朝雲新聞社)では、以下のように記述している。

作戦(Operation) 1　広義には、軍隊(自衛隊)が与えられた任務達成のために遂行するあらゆる軍事行動(防衛行動)をいう。 2　狭義には、ある目的を達成するまでの一連の戦闘行動をいい、捜索、攻撃、防御、移動、機動等及びこれに必要な後方活動を含む。

[iv] Level of War Ⅺ, Ⅰ-12-14, JP3-0 (Joint Operations)
Level of War 2-1 to 2-6, NWP3-32 (Maritime Operations at the Operational Level of War)

[v] Organizing Operational Area ppⅣ-11 JP3-0(Joint Operations)